



HEISEI HI-TEC Co., Ltd.

Chemical products & industrial wastes management

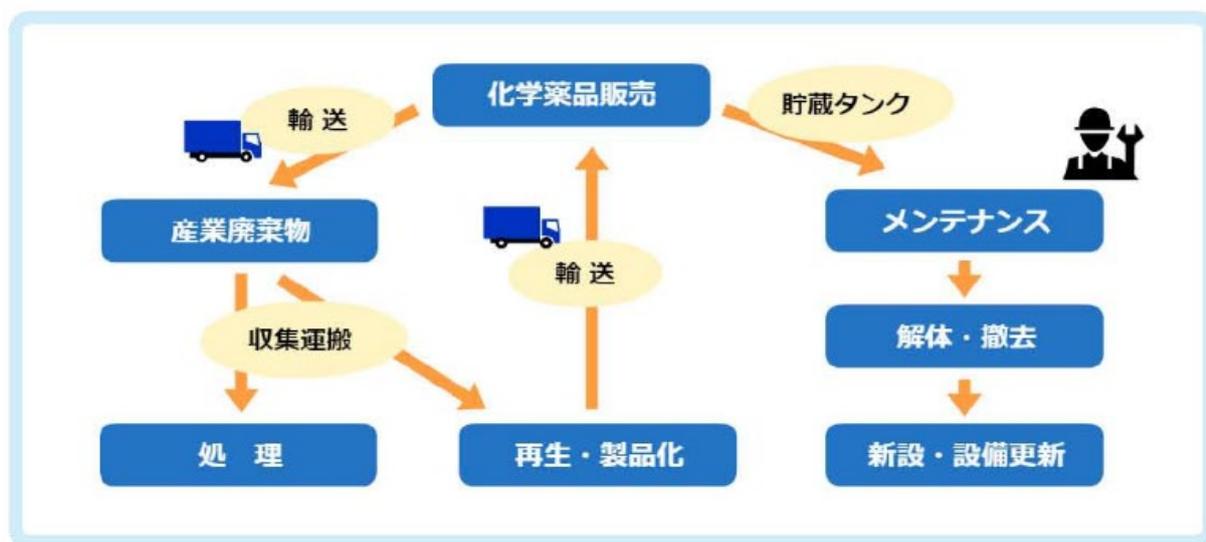
平成ハイテック株式会社 2023 年度 環境経営レポート

(対象期間：2023 年4月1日 ～ 2024 年3月31日)



化学薬品のトータルプランナー

お客様の要望にお応えし、化学薬品に関するあらゆる問題を解決します。



発行日：2024年7月1日

認証番号0012933



目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	4
組織の概要	5
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	6
産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集・運搬業許可証一覧	7
主な環境負荷の実績	8
環境経営目標及びその実績	8
環境経営計画の取組結果とその評価	9-10
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	12

特殊車輛紹介



ETFE 特性表

物理的性質	
比重	1.73~1.75
融点	265~270℃
機械的性質	
引張強度 23℃	410~470kg/cm ²
伸び 23℃	420~440%
引張弾性率	5~8×10 ³ kg/cm ²
ロックウエル硬度	R-50
摩擦係数 (対ステンレス)	0.20
熱的性質	
線膨張係数	9.4×10 ⁻⁵ ℃ ⁻¹
燃焼性	不燃
化学的性質	
耐薬品性	優

フランジ

サイズ	
40A / 50A / 65A / 75A (JIS5K JIS10K)	

※タンク内部の腐食を防ぐため、全車ETFE樹脂にてライニングを施しております。



ごあいさつ

1970年頃の日本の製造業はまさに量産の時代でした。関西でもワイヤロープや毛布、タオル等の生産量はピークを迎えており、その製造過程で使用した酸やアルカリ廃液は未処理のまま河川に放流され、赤潮や魚介類の死滅などの害が発生しておりました。

その頃に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の改正が行われ、産業廃棄物処理委託基準が制定されて、我社の活躍の場が生まれました。収集運搬業者の許認可制度、処分業者の許認可制度です。逸早く許認可を得た我社は、単なる収集運搬業者ではなく、廃棄物の再生利用を模索し、廃塩酸から塩化第二鉄、廃硫酸からポリ硫酸第二鉄、アルミ系廃液から硫酸バンド、ポリ塩化アルミニウム(PAC)へと、自らも再生利用して凝集剤を製造しながら、さらに余剰する廃棄物を他の化学会社に原料として供給を行ってまいりました。

また、クロム酸老化液を無水クロム酸の原料に、塩化銅廃液は亜酸化銅の原料にと、再資源化を委託しながら、廃棄物の有効活用に努めてまいりました。

工場は「内から外が見えない」ので、発生する廃棄物の有効利用や再生活用等の用途も見え難い。「いかに廃棄物を有効利用に繋げるか」を代行して模索するのが我社の業務であり、社員の営業指針となっております。

そのためには、あらゆる業種の製造業を訪れて、知識を豊富にし、その会社が利用可能な廃棄物をお薦めする事から始まります。廃棄物のサンプル提出や実機テスト、メリットとデメリットの検討、その結果、有効利用が決まれば排出事業者との業務提携、契約を代理代行致します。

廃棄物は年々減量化を行い、処分費用も減らさねばなりません。製品に至るまでに如何ほど廃棄物を発生させたか、またどのように廃棄物を処分したか、が問われる時代となりました。CO2の削減問題もますます厳しくなり、対策が急がれています。我社はこのような環境問題に真剣に取り組み、企業の皆々様の必ずやお役に立てるように努力して参りたく存じます。

何卒、未永くご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。 敬具

取締役会長 平尾 保

環境経営方針

<環境経営理念>

化学薬品の販売、輸送、処理コンサルタントを通じて、効果的な薬品使用、効率的な輸送体制、廃液の有効利用または減溶処理方法の提案を行うことにより、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

産業活動による地球環境に与える影響を最小限にとどめられる様に、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 事業所の省エネ及び車両のエコドライブに努めます。
3. 自社の廃棄物の削減や受託廃棄物の再資源化に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 顧客満足度の向上、売上の向上に努めます。
6. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。
7. 上記、環境経営方針を達成するために全従業員へ周知し、力量向上に努めます。



制定日：2018年6月14日

改定日：2024年12月1日

代表取締役 **平尾 吉隆**

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



□組織の概要

更新日：2024年7月1日

- (1) 名称及び代表者名
平成ハイテック株式会社
代表取締役社長 平尾 吉隆
- (2) 所在地
本 社 大阪府大阪市西区靱本町3丁目10番33号
住之江倉庫 大阪府大阪市住之江区平林北2丁目4番地1号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 平尾 吉隆 TEL：06-6445-2424
担当者 國枝 亨祐 TEL：06-6445-2424
- (4) 事業内容
化学工業薬品製造販売業/産業廃棄物収集運搬業
- (5) 事業の規模
法人設立 1974年6月5日
資本金 3,600 万円
売上高 107,600 万円

	本社	住之江倉庫	合計
従業員	10 名	14 名	24 名
延べ床面積	608 m ²	1468 m ²	2076 m ²

従業員数は2023年4月1日現在

受託した産業廃棄物の収集運搬量

収集運搬量 産廃廃棄物	4,674 t
収集運搬量 特別産業廃棄物	15,072 t

車種	台数	車種	台数
10tタンクローリー	5 台	8t清掃車	2 台
12tタンクローリー	6 台	4t平ボディー車	2 台
17tタンクローリー	1 台	4tモータービルジエット	1 台
		合計	17 台

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 平成ハイテック株式会社
対象事業所： 本社、住之江倉庫
対象事業活動： 化学工業薬品販売業、産業廃棄物収集運搬業、特殊清掃・化学プラントメンテナンス

□事業の紹介

化学工業薬品製造・販売



特殊清掃・化学プラントメンテナンス

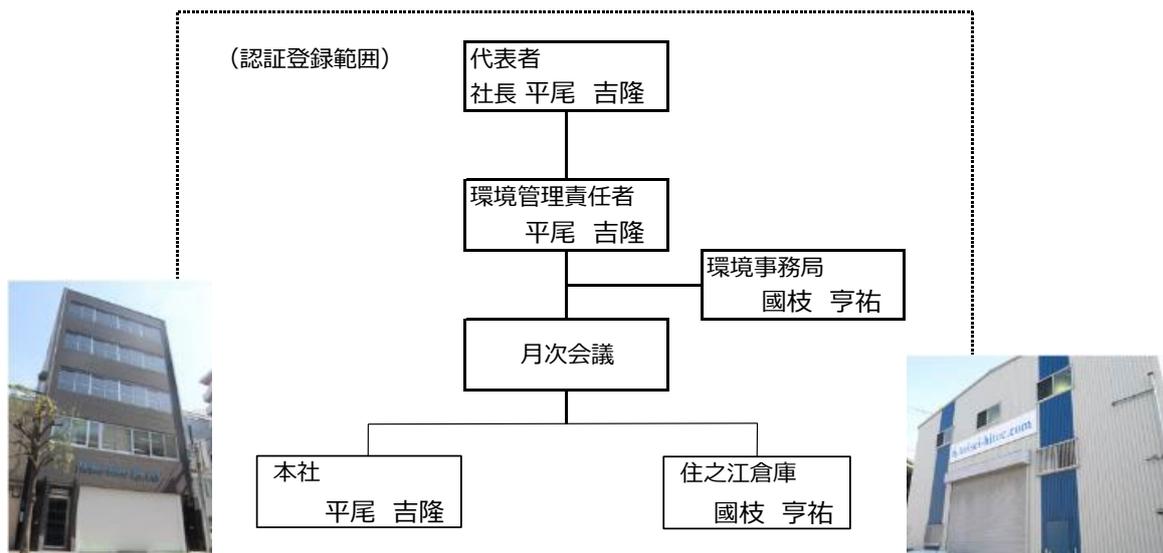


化学工業薬品輸送、産業廃棄物収集・運搬



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2024年7月1日



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、月次会議の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
月次会議	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集・運搬業許可証一覧

平成ハイテック株式会社 収集運搬業許可証一覧

R6.12.3更新

政令都市	許可区分	許可番号	取得日	許可期限	許可内容				
					廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃油	廃ブラ
大阪府	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02750003200号	H5.06.01	R12.05.31	○	○	○	○	○
	産業廃棄物 ㊟	第02700003200号	S49.12.02	R12.12.02	○	○	○	○	○
兵庫県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02851003200号	H5.10.26	R12.10.24	○	○	○	○	
	産業廃棄物 ㊟	第02801003200号	S50.06.19	R13.06.05	○	○	○	○	○
京都府	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02650003200号	H5.12.21	R12.12.20	○	○	○		
	産業廃棄物 ㊟	第02600003200号	H15.12.24	R12.12.23	○	○	○		○
奈良県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02950003200号	H5.08.24	R12.8.23	○	○			
	産業廃棄物	第02900003200号	R5.02.06	R10.02.05	○	○	○	○	○
滋賀県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02551003200号	H5.12.10	R12.12.09	○	○	○		
	産業廃棄物	第02501003200号	S55.09.29	R7.03.15	○	○	○	○	○
和歌山県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第03050003200号	H15.11.18	R12.11.17	○	○	○	○	
	産業廃棄物 ㊟	第03000003200号	H25.01.08	R12.01.07	○	○	○	○	○
岡山県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第03351003200号	H5.10.29	R12.10.28	○	○	○		
	産業廃棄物 ㊟	第03301003200号	H15.03.13	R12.03.12	○	○	○	○	○
広島県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第03450003200号	H9.12.04	R12.11.30	○	○	○	○	
	産業廃棄物	第03400003200号	H14.12.18	R7.01.04	○	○	○	○	○
山口県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第03550003200号	H5.03.13	R12.06.28	○	○	○		
徳島県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第3650003200号	H19.08.08	R11.08.07	○	○	○	○	
	産業廃棄物	第3600003200号	R5.02.03	R10.02.02	○	○	○	○	○
香川県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第03759003200号	H5.10.25	R10.02.02	○	○	○		
	産業廃棄物	第03709003200号	R6.9.19	R11.9.18	○	○	○		
愛媛県	特別管理産業廃棄物	第03855003200号	R3.5.13	R8.05.12	○	○	○		
福岡県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第04050003200号	H25.04.17	R12.06.24	○	○	○	○	
	産業廃棄物 ㊟	第04000003200号	H18.04.26	R10.04.13	○	○	○	○	○
宮崎県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第04550003200号	H29.01.10	R11.01.09	○	○	○		
愛知県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02350003200号	H5.07.23	R12.08.12	○	○	○	○	
	産業廃棄物	第02300003200号	H17.01.27	R7.01.26	○	○	○	○	○
三重県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02450003200号	H5.07.01	R12.06.30	○	○	○	○	
	産業廃棄物 ㊟	第02400003200号	H14.03.25	R11.03.24	○	○	○	○	○
岐阜県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02150003200号	H5.08.06	R12.08.05	○	○	○		
	産業廃棄物 ㊟	第02100003200号	H9.11.19	R11.11.18	○	○	○	○	○
静岡県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第02251003200号	H16.03.10	R13.03.09	○	○	○	○	
	産業廃棄物	第02201003200号	R4.7.14	R9.07.13	○	○	○	○	○
福井県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第01857003200号	H6.10.14	R13.10.13	○	○	○		
	産業廃棄物	第01807003200号	R5.4.6	R10.4.5	○	○	○	○	○
石川県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第01752003200号	H24.11.29	R11.11.28	○	○	○		
	産業廃棄物	第01700003200号	R2.11.24	R7.11.23	○	○	○	○	○
富山県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第01656003200号	H6.11.22	R13.11.21	○	○	○		
	産業廃棄物	第01601003200号	R2.2.18	R7.02.17	○	○	○	○	○
長野県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第2059003200号	H6.03.03	R13.03.02	○	○	○		
群馬県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第01050003200号	H14.05.08	R11.05.07	○	○	○	○	
東京都	特別管理産業廃棄物 ㊟	第13-50-003200号	H14.10.07	R11.10.06	○	○	○	○	
神奈川県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第01453003200号	H9.10.02	R11.10.01	○	○	○		
埼玉県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第01152003200号	H10.02.20	R12.02.19	○	○	○	○	
茨城県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第00851003200号	H10.04.10	R12.04.09	○	○	○	○	
	産業廃棄物 ㊟	第00801003200号	H28.04.18	R10.04.17	○	○	○		
千葉県	特別管理産業廃棄物 ㊟	第01250003200号	H13.07.06	R10.08.31	○	○	○		
	産業廃棄物	第01200003200号	R2.08.20	R7.08.19	○	○	○	○	○
熊本県	特別管理産業廃棄物	第04355003200号	R5.03.20	R10.03.19	○	○	○		
	産業廃棄物	第04305003200号	R5.03.20	R10.03.19	○	○	○		
高知県	特別管理産業廃棄物	第03950003200号	R6.03.19	R11.03.18	○	○	○		
	産業廃棄物	第03900003200号	R6.03.19	R11.03.18	○	○	○	○	○

□ 主な環境負荷の実績

項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	985,672	938,511	941,620
電力	kg-CO ₂	11,299	7,948	6,874
化石燃料(合計)	kg-CO ₂	22,918	22,643	934,746
ガソリン	kg-CO ₂	19,138	14,794	13,958
軽油	kg-CO ₂	955,236	915,321	920,279
灯油	kg-CO ₃	269	224	254
総水使用量	m ³	1,030	1,313	1,109
一般廃棄物排出量	kg	248	342	321
普通産廃排出量	kg	2,960	1,901	3,174
特管産廃排出量	kg	0	70	106

*電力の二酸化炭素排出係数は関西電力の2021年度の調整後排出係数の0.311を使用した。

*二酸化炭素総排出量には灯油使用によるCO₂排出量が含まれています。

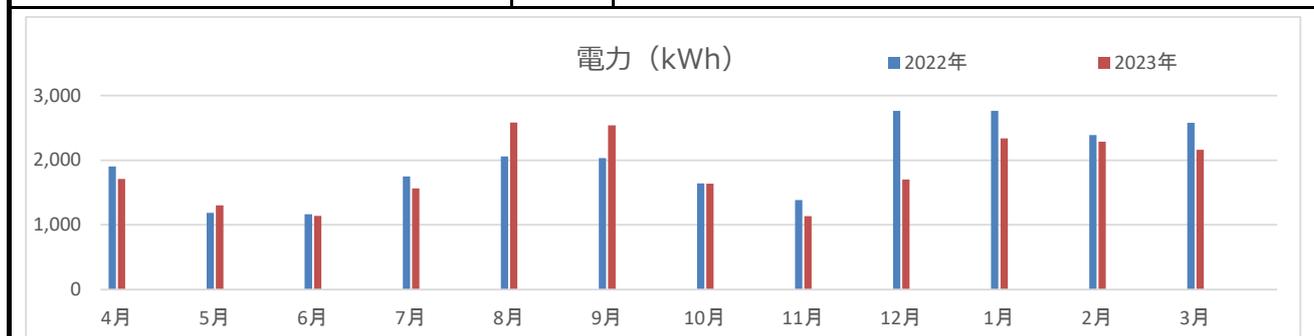
□ 環境経営目標及びその実績

項目	年度	単位	基準値	2023年		評価	2024年	2025年
			(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂		7,042	6,901	6,874	○	6,760	6,690
	基準年度比		2022年	98%	98%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂		930,115	911,513	934,238	×	902,212	892,911
	基準年度比		2022年	98%	100%		97%	96%
一般廃棄物の削減	kg		342	335	321	○	335	328
	基準年度比		2022年	98%	94%		98%	96%
水道水の削減	m ³		1,297	1,271	1,109	○	1,258	1,245
	基準年度比		2022年	98%	86%		97%	96%
危険に配慮した収集運搬			行動目標 (次項による)					

□環境経営計画の取組結果とその評価

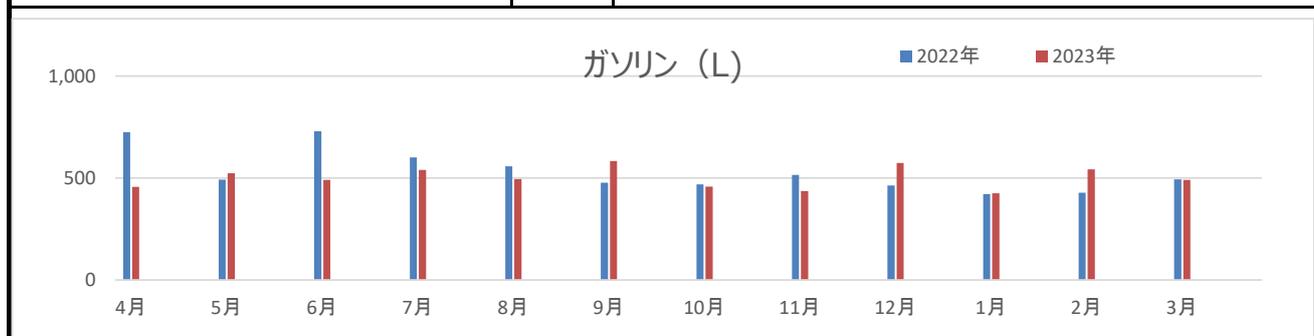
数値目標：○達成 ×未達成

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	目標には達していないが、前年比で改善が見られた。大部分を占めている空調温度を適正化することにより目標達成を目指したい。
・空調温度の適正化（上げすぎ下げすぎの確認）	×	
・不要照明の消灯	×	
・パソコン、空調機等のOA機器は、省電力設定にしている。	○	

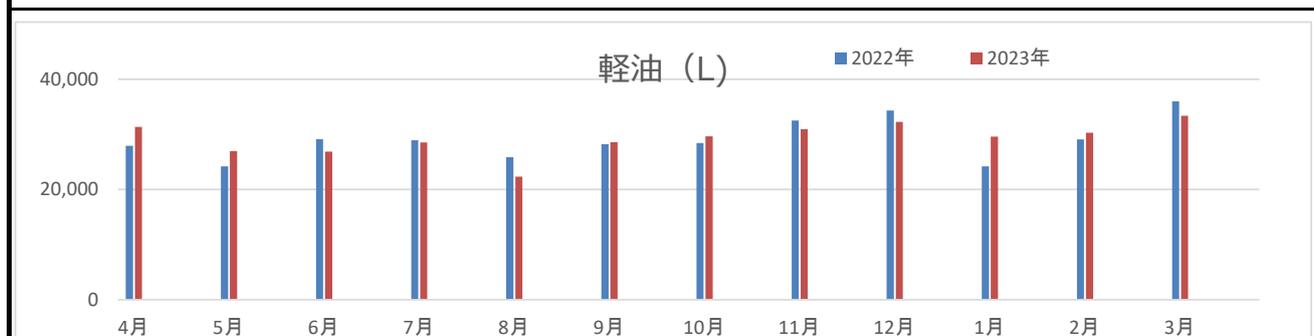


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	1,904	1,188	1,165	1,750	2,060	2,031	1,640	1,383	2,762	2,762	2,388	2,579
2023年	1,710	1,304	1,140	1,565	2,583	2,540	1,639	1,136	1,702	2,336	2,286	2,162

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	売上上昇に伴い、目標未達となった。
・効率的なルートで配送・営業	○	
・エリア別営業ルートの見直し	○	
・ECOモード走行を多用する	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	725	493	729	600	557	477	469	515	463	421	428	494
2023年	456	523	491	540	494	583	458	436	574	425	542	490



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	27,913	24,170	29,114	28,924	25,874	28,229	28,420	32,527	34,314	24,218	29,101	35,978
2023年	31,353	26,985	26,846	28,543	22,332	28,597	29,613	30,939	32,239	29,566	30,282	33,376

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	ほぼ全ての月で目標達成となった。
・分別の徹底	○	引き続き達成していけるよう、削減に努めていく。
・シュレッダー廃紙の緩衝材へのリサイクル化	○	
・裏紙利用による紙使用数の削減	○	
・ペットボトルキャップの回収と寄付	○	
・インスタントコーヒー(ドルチェグスト)の豆殻の肥料	○	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	31	25	28	30	28	31	24	34	24	24	24	34
2023年	24	23	26	26	24	24	26	29	34	29	24	32

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	漏水の影響で5、6月の使用量が多くなってしまい、目標未達となった。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	漏水を解消した後は大幅に削減できているため、来期は目標達成できるよう節水を推進していく

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	117	111	94	138	137	113	89	117	104	106	96	75
2023年	115	194	151	147	87	56	82	64	60	44	44	65

危険に配慮して収集運搬 : 年間を通して無事故無違反でした。新たにデジタコを導入し、更なる予防に努める予定。

課題を解決しチャンスを活かす取組み : CSLの向上を課題に、全社員にて現場での振る舞いや5Sの強化実施。

SDGsへの取組み : 社外交流を通して小さなことから出来ること、考えることを実施、まずは全社員にSDGsについて周知が出来た。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項 (施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物の処理委託
許可取得都府県条例 (流入車規制)	収集運搬車
フロン排出抑制法	業務用空調機
毒物劇物取扱法	産業廃棄物収集運搬
水質汚濁防止法	漏洩時の報告
家電リサイクル法	廃棄時の適正処理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情と要望

外部からの環境上の苦情と要望はありませんでした。

緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： ウォーターハンマー、パッキン未装着による漏洩	
■実施日： 令和5年 9月30日(日) 8:00~10:00	■実施場所 平成ハイツ株式会社 住之江倉庫
■参加者： 田中、國枝、石河、阿部、山内、梶村、中川、 細川(後日、運輸事業部員にフォローアップ)	■実施内容： ウォーターハンマー、パッキン未装着による 漏洩体感
■評価： ウォーターハンマー現象、接続部のパッキン未装着時にどのように漏洩するかを体感し、注意喚起をした。 頭では理解していることを実際に体感することにより、より注意深く作業に当たることに期待ができる内容となった。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年7月1日

総合評価として今年度は、良であったと評価します。主な個別評価は以下にまとめました。

①環境に配慮した車両の導入：

今年度も、排ガス指定の車両を2台導入することで、交通における環境負荷を軽減しました。これは組織が環境に対する責任を果たし、最新の排気ガス規制に則った車両管理を可能とします。

②環境経営計画の取組み：

達成、未達成ともに見受けられるが、貨物運搬業の繁忙に対する浮き沈みや、達成具合も誤差範囲と判断したため、現状維持という判断しました。引き続き個人個人の意識を高める必要があります。

③地域貢献としてのキャンペーン参加：

今年度も地域住民と共に行った道路清掃美化キャンペーンでは、地域コミュニティとの協力を通じて、新たに参加したメンバーの地域社会に積極的に貢献している姿勢を評価しました。次年度以降は、まだ参加したことがないメンバーの参加を促し、社会貢献への学びの機会を増やします。

④継続的な活動：

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

代表取締役社長 平尾 吉隆

□これまでの環境活動の紹介

ペットボトルキャップの回収、寄付

ペットボトルキャップリサイクル報告書



平成ハイテック株式会社 様

3.9kg(約1,850個分)のペットボトルキャップを集められました。
7クチンで換算すると・・・約3.0人分に相当します！
ありがとうございます。



JCVとは？「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」の略称で、開発途上国の子どもたちにワクチンを贈り、子どもたちの未来を守る活動を行う民間の国際支援団体です。普段捨ててしまうキャップでも、1.3キロ(約620個)でポリオワクチン1人分相当になります。

